

2011/12/15
菊地（北大）

第1回巨大災害の軽減と回復力の強いまちづくりタスクフォース議事録

日時：2011年12月14日（水） 10:00～12:00

場所：建築会館305号会議室

出席者：福和、有賀、大月、塩原、竹内、久田、中島（電子会議）、和田、酒井、菊地

提出資料：

- ・第1回巨大災害の軽減と回復力の強いまちづくりタスクフォース
- ・タスクフォース名簿
- ・特別調査委員会設置提案書（案）
- ・建築の原点に立ち返る一暮らしの場の再生と確認—東日本大震災を鑑みて（第一次提言）
- ・二次提言に向けて・・・組織造りと運営
- ・＜委員会報告＞「広域巨大災害と大震災に備える特別調査委員会活動報告」
- ・調査研究項目2）長周期地震動対策と建築物即時被災度評価（担当：久田・工学院大）
- ・参考 提言活動案：首都（現代超巨大都市）と震災対策 久田（2011年12月12日）
- ・WG設置申請書（仮称）復興まちづくりと減災都市設計・計画研究提言WG

<議事>

1. 巨大災害の軽減と回復力の強いまちづくりタスクフォースの説明

- ・本タスクフォースでは、2012年4月より開始される「巨大災害の軽減と回復力の強いまちづくり特別調査委員会」の活動にむけての準備を行う。
- ・第一次提言（建築雑誌10月号で発表、5つのキーワード：津波、対応、首都、原発、継承）を受け、20の検討項目のうち、13は常置委員会が担当し、7は特別調査委員会を発足させて検討する。
- ・自己紹介
- ・特別調査委員会では以下の5つのWGを組織する。
 - 過大外力に対する建築と都市の性能（塩原）
 - 長周期地震動対策と建築物即時被災度評価（久田）
 - 建築・地域・都市におけるエネルギー需給の再考（田辺）
 - 復興と予防に資する減災都市設計・計画（有賀）
 - 巨大災害時の住の確保と生活再建（大月）
- ・メンバーは将来のことを考え40代～50代前半を主体に構成する。
- ・人的資源が限られているので、常置委員会、特別調査委員会の活動においては、効率的に相互に補完しあい、検討内容の重複を避ける。

- ・ 本委員会の活動に関連して、中林委員会「広域巨大災害と大震災に備える特別調査委員会」の報告書（2012年3月に完成予定）、および中央防災会議の報告書が参考となる。中央防災会議の報告書の URL を後ほど知らせる（福和）。
- ・ 特別調査委員会設置提案書の説明（竹内）

2. 二次提言に向けての組織造りと運営

- ・ 一次提言の 20 の検討課題についての常置委員会の分担を説明
- ・ 20 の検討課題の内訳は、津波が 5、対応が 3、首都が 5、原発が 4、継承が 3
- ・ 二次提言の公表スケジュールは以下の通り
 - 2013年3月が二次提言のとりまとめ期限
 - 2013年の建築学会大会で二次提言の骨子を公表
 - 2013年の建築雑誌にて二次提言を公表
 - 2013年度末に報告書

3. タスクフォース、特別調査委員会の運営について

- ・ 予算は、2011年度：50万円、2012年度：150万円、2013年度：150万円、各 WG に対しては、15万円／年が見込める。
- ・ 次回（2012年2月22日）までに、WG 設置申請書を作成する。
- ・ 委員会を3～4回／年を開催して、WG 間で情報交換をはかる。
- ・ 2012年度建築学会大会（名古屋大学）にて、防災に関する市民向けシンポジウムを企画しているので、本委員会との連携をはかる。

4. 各 WG の活動内容に関するディスカッション

（以下、WG 名は主査名+WG として表示）

- ・ 塩原 WG には新性能設計、想定外外力に対する構造のあり方など、向こう 10 年間の大課題を検討して頂きたい。久田 WG には、もう一つの構造、広さ、群、エリアとしての構造を検討して頂きたい。
- ・ 塩原 WG と久田 WG のすみ分けを、例えば、地震前と地震後、構造と構造以外、などとして考える。久田 WG での検討内容は出版物になりやすい。出版物では久田 WG をメインとして、塩原 WG が 1 章分を担当するような構成となるかもしれない。（福和）
- ・ 低頻度大災害をメインテーマとしたい。神戸のことはだいたいやりつくした。本 WG の活動を、もう一度構造のことを研究するための起爆剤としたい。命の確保が重要なことを再確認した。（塩原）
- ・ 有賀 WG では、メンバー構成について、今回の震災を受け復興まちづくりを担当している若手の研究者を中心に人選している。災害のリスクを減らしていく性能設計を検討したいと考えている。提言を成果品とするだけではなく、それを使っての出前講義など、支

部との連携も図りたい。その後は、都市計画本委員会の中で組織をつくって活動を継続していくべきと考える。(有賀)

- ・ 現在、仮設住宅の応援に入っている。避難期、仮設期における住居のあり方を検討しているが、現状の調査については組織立って情報収集しているわけではない。大月 WG の立ち上げをきっかけに、それらを組織的に情報収集し、報告書を作成することで記録を残したい。(大月)
- ・ 一次提言以外でも大事なことは WG の検討課題に入れるべきである。生活再建には、住む場所と働く場所が必要なので、職についても考える。東海・東南海・南海地震ではあまりにも被害が大きくて、すぐに仮設住宅を確保できないと予想される。(福和)
- ・ 最低限の住まいの確保、インフラフリーの住居についても検討が必要である。(大月)
- ・ 学問の有り方も平常時と非常時で異なる。
- ・ まちづくりに関する地域のホームドクターが必要 (福和)
- ・ 非常時に人を出すだけではなく、吸収する建築が必要 (和田)

5. 今後の予定

- ・ 第 2 回タスクフォース

日時：2012 年 2 月 22 日 (水) 10:00～12:30

WG 主査は、1 年後、2 年後の着地点、刊行物の計画について説明する。

- ・ 第 1 回委員会

日時：2012 年 5 月 7 日 (月) 17:00～

第 1 回 WG を第 3 回委員会前に開催すること

以上